

昭和57年度リンゴ用除草剤・生育調節剤試験成績概要の一部訂正について

本誌第17巻第2号に掲載された昭和57年度リンゴ用除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定結果一覧表18頁の生育調節剤〔収穫前落果防止剤〕A-365 (ストップール)液剤について、

有効成分含有量表示の違いがあり、それにしたがって、散布濃度も変更になりますので、下記の通り訂正いたします。

記

	対象果樹 〔品種名〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率(%)	試験実施場所 (場所数)	試験の種類〔ねらい〕 処理時期; 散布葉量(製品/a) <水量/a>; 処理方法等	新継 の別 今回 判定	判定理由または内容
旧	リンゴ 〔つがる・ スター キング〕	(1) A-365 液 (ストップール) 〔ユニオンカーバイド日本〕	ジクロロプロップ: 2,4-ジクロロフェノキシ-2'-プロピオニックアシッドトリエタノールアミン塩 ……3	〔つがる〕 北海道中央農試 (1) (自主) 青森畑作園試, 岩手園試, 秋田果試, 山梨果試, 〔スターキング〕 (自主) 岩手園試.	実用化〔収穫前落果防止効果の確認〕 収穫前25日および15日(2回); 20, 30 ppm; 立木全面処理.	継続 実	・〔デリシャス系およびつがる; 収穫前落果防止〕 収穫前25日および15日の2回, 20～30 ppm 液, 立木全面散布.
新	同上	同上	ジクロロプロップ: 2,4-ジクロロフェノキシ-2'-プロピオニックアシッドトリエタノールアミン塩 ……4.5	同上	実用化〔収穫前落果防止効果の確認〕 収穫前25日および15日(2回); 30, 45 ppm; 立木全面処理.	同上	・〔デリシャス系およびつがる; 収穫前落果防止〕 収穫前25日および15日の2回, 30～45 ppm 液; 立木全面散布.

植調協会だより

◎ 会計監査について

昭和58年5月10日(火), 昭和57年度事業の実施状況・収支決算につき監査を受けた。

◎ 第45回役員会開催す

昭和58年5月25日(水), 植調会館3階会議室において開催され, 次の議案につき審議可決された。

- 役員人事の件
- 昭和57年度事業報告および決算報告承認の件
- 昭和57年度剰余金処分(案)承認の件
- 昭和58年度役員報酬の件
- 昭和58年度事業計画および予算(案)承認の件
- 諸規程の件

1. 役員人事の件

このたび, 理事として御尽力をいただいた丸山篤氏が退任された。長い間大変御苦勞様でし

た。

次の両氏が新たに理事に選任された。

新任理事 国武正彦（兼北陸支部長）

“ 宮田喜次郎（兼東海支部長）

2. 昭和57年度事業報告および決算報告承認の件

1) 昭和57年度事業報告について

(1) 一般事業に関する事項

① 第43回役員会（昭和57年5月24日開催）

第44回役員会（昭和57年12月21日開催）

② 監査（昭和57年5月18日実施）

③ 評議員会（昭和57年9月14日開催）

(2) 受託・委託試験研究事業に関する事項

ア. 特別研究

① 水田除草剤の使用合理化に関する試験（継続）

体系は正試験……13剤，47場所で試験し，7剤については前年度に引き続き一発処理剤としての効果を確認した。また5剤について新たに使用基準が作成された。

② 水田雑草発生診断法に関する試験（継続）

初年度であり，供試圃場の雑草発生状況を確認しながら全国14場所で，一発処理剤，2種類の一般体系処理を比較し，雑草の残存程度，翌年の発生量などの調査を実施した。

③ 畑地用細粒剤の開発に関する試験（継続）

連絡試験として8薬剤，適用性試験に6薬剤を供試して試験を実施し，除草効果・効力の持続性ともに従来のもより優り，また薬害も軽微で，2薬剤について実用化可能と判断された。

イ. 受託試験

① 除草剤抵抗性に関する生理生化学および電子顕微鏡学的研究（継続）

② 除草剤の水産動植物生体内蓄積調査技術確

立に関する研究（継続）

本年度は蓄積実態を把握するための予備調査を茨城県の潟沼水系をモデルに選び実施した。

③ 海産魚類に対する農薬の急性毒性および亜急性毒性に関する試験（終了）

空中散布に供する殺虫剤が海産魚介類に及ぼす影響を調査した。前年度までにカキ，スズキおよび海水メダカについて調べたが，本年度は腹足類（巻貝）のアワビについて96時間後までのLC50を求める急性毒性試験と21日間曝露による亜急性毒性試験を実施した。供試薬剤は2剤で，試験方法は流水式とし，観察項目は弊死率，薬剤の体内濃度および諸臓器への影響とした。その結果，急性毒性は2～12ppmとなり，亜急性毒性での体内濃度はかなり濃縮され，肝臓への影響も大きかったが，實際上，現地での濃度を考慮すれば問題は無いものと思われる。

ウ. 受託・委託試験

① 除草剤および生育調節剤の薬効・薬害試験
昭和56年度秋冬作関係……362点(85薬剤)

昭和57年度春夏作関係……2,762点(439薬剤)

② 除草剤および生育調節剤の試験結果

① 昭和56年度秋冬作関係……85薬剤のうち，「実」13薬剤，「実・継」38薬剤，「継」34薬剤。

② 昭和57年度春夏作関係……439薬剤のうち，「実」68薬剤，「実・継」202薬剤，「継」157薬剤，「継？」6薬剤，「中止」6薬剤。

③ 昭和57年度普及適用性試験……864件。

④ 昭和57年度農薬作物残留分析試験……46件。

⑤ 昭和57年度農薬土壌残留分析試験……12

件。

2) 昭和57年度収支決算報告について

(1) 公益事業会計

収 入	17,170,000 円
支 出	14,509,008
当 期 剰 余 金	2,660,992

(2) 公益委託試験会計

収 入	836,795,798 円
支 出	796,735,399
当 期 剰 余 金	40,060,399

(3) 収益事業会計

収 入	12,676,607 円
支 出	11,415,831
当 期 剰 余 金	1,260,776

(4) 公益特別試験会計

① 除草剤抵抗性に関する生理生化学および電子顕微鏡学的研究（農林水産技術会議補助金）

収 入	5,026,714 円
支 出	5,026,714

② 除草剤水産動植物生体内蓄積調査技術確立委託費（農業振興対策調査等委託費）

収 入	4,631,146 円
支 出	4,631,146

③ 海産魚介類に対する農薬の急性毒性および亜急性毒性試験（林野庁委託費）

収 入	2,006,000 円
支 出	2,006,000

3. 昭和57年度剰余金処分(案)承認の件

(1) 公益事業会計当期剰余金 2,660,992 円

(2) 公益委託試験会計当期剰余金

40,060,399

(1)・(2)について協会準備金へ繰り入れ

(3) 収益事業会計当期剰余金 1,260,776

繰越欠損金 272,098 を減じた残額 988,678

を次期繰越剰余金とする。

4. 昭和58年度役員報酬の件

顧問・会長・専務・常務・支部長（6名）の年間報酬を 26,900,000 円以内とする。

5. 昭和58年度事業計画および予算(案)承認の件

1) 昭和58年度事業計画について

【事務局】

(1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究

① 水田難防除雑草に関する研究会

② 水田体系是正用除草剤の開発に関する研究会

③ 不良環境条件下における水田除草剤使用法に関する研究会

④ 水田雑草発生診断に関する研究会

⑤ 水稻倒伏軽減剤の開発に関する研究会

⑥ 畑地用細粒剤の開発に関する研究会

⑦ 水稻の登熟向上に関する研究会

⑧ ぶどう花振り防止剤に関する研究会

⑨ 柑橘類の摘果剤に関する研究会

⑩ 果樹の収穫前落果防止剤に関する研究会

⑪ 市況調査研究

⑫ 除草剤の永年使用(10年間)による土壌・作物・微生物に及ぼす影響に関する調査研究

(2) 植物調節剤薬効薬害試験の受託・委託，試験成績検討会の開催，成績書の印刷，研究成果の研究・普及・行政部局に対する説明，および研究会・講習会等の開催

【研究所】

植物調節剤の開発利用調査研究・試験の受託，および研修生の受け入れ

【支部】

植物調節剤の試験受託

2) 昭和58年度収支予算について

(1) 公益事業会計

収 入 64,660,000 円
支 出 64,660,000

(2) 公益委託試験会計

収 入 827,500,000 円
支 出 827,500,000

(3) 収益事業会計

収 入 12,650,000 円
支 出 12,650,000

(4) 公益特別試験会計

① 除草剤抵抗性に関する生理生化学および電子顕微鏡学的研究（農林水産技術会議補助金）

収 入 5,000,000 円
支 出 5,000,000 円

② 除草剤水産動植物生体内蓄積調査技術確立委託費（農業振興対策調査等委託費）

収 入 4,610,000 円
支 出 4,610,000

6. 諸規程の件

受託試験実施規程を新設した（昭和58年度より税制改正に伴う実費弁償の適用を受けたので、受託・委託試験については、この規程を適用する）。

なお、給与規程・内国旅費規程の一部改正を行なった。

◎ 会議開催日程のお知らせ

・昭和57年度非農耕地関係除草剤試験成績検討会

日時：昭和58年7月8日（金）10～17時

場所：植調研究所会議室（茨城県稲敷郡牛久町柏田860, TEL.0298-72-5101）

・昭和57年度秋冬作芝生関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和58年7月19日（火）13～17時

場所：関西グリーン研究所会議室（兵庫県宝塚市蔵人字山畑1302の2, TEL.0797-72-4474）

編 集 後 記

気象庁の予報では、今年の梅雨は陽性型だという。陰性型よりはよいかも知れぬが、梅雨あけの気象異変に注意する必要がある。

農業技術の進歩にはめざましいものがあり、農家はこの進歩した農業技術を駆使して栽培を続けているが、天災だけは避けることはできない。6月9日、関東地方を襲った雷雨が、鶏卵大の雹を降らせ、ビニールハウス等の施設栽培農家に大打撃を与えた。科学技術の進歩によって、このような気象の急変をコントロールできるような時代がくるかも知れないが、それまでの長い年月、大自然の脅威とたたかって行かなければなるまい。

異常気象の予測されるなかでの農業経営にはかなり難しいものがあるが、これを乗り越えて農業と取り組み、明日の農業を築いて行くのだという気魄が欲しい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03) 832-4188 (代)

昭和58年6月発行

植調第17巻第3号

¥300 (送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03) 833-1821 番(代)